

ライフライン停止時に役に立つアイテム



水	飲料水だけでなく、生活用水としても水は必要です。
ポリタンク	給水拠点から水を運ぶ際に使用します。折りたためるタイプであれば場所をとりません。 ※狛江市周辺では給水拠点として和泉本町浄水所、砧浄水場、給水場所として防災センター、慈恵第三病院が指定されています。
カセットコンロ	オール電化の家庭では停電時、その他の家庭でもガス供給停止時にはお湯を沸かす他様々な調理ができます。(ガスボンベは地震後手に入りにくくなることを想定し、常に在庫がある状態を維持しておく。)
食品包装用ラップ	食器に被せて使用し、食事後に廃棄することで、洗い物で使用する水の節約ができます。
耐熱性ポリ袋 (高密度ポリエチレン製)	カセットコンロでお湯を沸かしながらご飯を炊くなど様々な調理ができます。1面の安心レシピではポリ袋クッキングのレシピを紹介!
簡易トイレ	上下水道の停止に備えて備蓄しておきましょう。

※ここに挙げたものは一例です。自分の生活スタイルを見直して必要なものを備えましょう。

ご家庭のブロック塀を確認!!

ブロック塀は建築基準法施行令の規定により、最低限守らなければならないことが定められています。まずは、下記ホームページのチェックポイントをご確認ください。

市ホームページ：ブロック塀等の点検について



ブロック塀→生け垣補助制度あります 緑のまち推進補助制度

《対象》

- ・市内に土地を所有するまたは所有予定の方
- ・新たに生け垣等の造成工事を行う方
- ・工事後、生け垣等を維持管理することができる方

※新築工事に付随する生け垣等の設置も助成対象です。

《申込・問い合わせ》必ず事前に相談の上、申請書を環境政策課 水と緑の係へ

《補助対象費用および補助金額》※100円未満の端数は切り捨て

工事の名称	補助対象費用	補助金額
生け垣造成・植樹帯造成	生け垣・植樹帯造成費用	総額の50%または1㎡あたり1万円のいずれか低い方(上限30万円)
花壇造成工事	花壇造成費用	総額の50%または1㎡あたり5,000円のいずれか低い方(上限15万円)
生け垣造成・植樹帯造成工事および花壇造成工事に伴うブロック塀撤去工事	既存ブロック塀等の撤去費用	総額の50%または1㎡あたり5,000円のいずれか低い方(上限15万円)



駅前滞留者・帰宅困難者対策

今回の大阪での地震は発生時刻が通勤・通学時間であったことやその後電車の運行に時間がかかったため駅を中心に多数の滞留者が発生しました。首都直下地震発生時も多くの滞留者や帰宅困難者の発生が予想されます。発生時刻によっては勤務先等から帰宅することが困難になることも想定されるため、最低3日間を勤務先等で過ごすための備えをしておきましょう。また、帰宅が困難になった場合等に備え、家族との安否確認手段や連絡手段をあらかじめ決めておきましょう。

外出先(勤務先等)での対策

正確な情報収集を行う

災害時は正確な情報を手に入れる必要があります。インターネットが普及している現在では、素早く様々な情報が飛び交い、役に立つ情報が多く手に入る反面、デマ情報と呼ばれる誤った情報が入ってくることもあります。重要な情報については公的機関等が発信するものを注視し、積極的に情報収集をしましょう。

狛江市では、災害時の確実な情報伝達のため、登録制の「こまえ安心安全情報メール」や「狛江市twitterアカウント」を運用しています。災害時の正確な情報収集に備えあらかじめ登録しておきましょう。

災害時帰宅支援ステーションとは

災害時帰宅支援ステーションでは、徒歩による帰宅者に対する支援の一環として、水道水・トイレ・テレビ及びラジオからの災害情報の提供を行うこととしています。

また、コンビニエンスストアやガソリンスタンド、ファミリーレストラン等も同じ役割を担います。

また、東京都防災マップで災害時帰宅支援ステーションを検索することができます。



anzen-komae.jp/komae/entry
狛江市twitterアカウント
@KomaeCity



地震に備えて実践! 今やろう!

地震直後の行動を確認	<input type="checkbox"/> 地震が来たらまず身の安全! <input type="checkbox"/> 消火器の位置を確認しておく。
家具類の転倒・落下・移動防止	<input type="checkbox"/> 家具類が転倒・落下・移動しないよう固定しておく。 <input type="checkbox"/> 地震が起きても避難経路を塞がないよう家具の配置を検討する。 <input type="checkbox"/> 就寝中の地震に備え、寝ている場所へ家具が倒れてこないよう、配置を検討する。 <input type="checkbox"/> 部屋の中でガラスが飛散した場合の避難に備え、スリッパ等を準備しておく。
避難の考え方を確認	<input type="checkbox"/> 避難の流れを確認する。 <input type="checkbox"/> 最寄の災害時集合場所や避難所を把握しておく。 <input type="checkbox"/> 在宅避難の準備をしておく。
最低3日間、できれば1週間分の食糧等を備蓄	<input type="checkbox"/> 水や食糧品等は、常に在庫をストックしておく。(アレルギー等を配慮する) <input type="checkbox"/> ライフラインの停止に備えて必要な物品(カセットコンロ、携帯電話用予備バッテリー等)を用意しておく。
外出先での被災に備える	<input type="checkbox"/> 家族間の連絡手段や安否確認方法を確認しておく。 <input type="checkbox"/> 集合場所を決めておく。 <input type="checkbox"/> 帰宅困難になった場合に備え、勤務先等で3日間程度滞在できるだけの物資を備蓄する。
正確な情報収集手段の確認	<input type="checkbox"/> こまえ安心安全情報メールに登録する。 <input type="checkbox"/> 公的機関のtwitterアカウントをフォローする。



防災行政無線(スピーカー)で放送した内容を電話で確認できます。

防災行政無線自動応答システム:0800(800)0504(通話料無料)